

# 序 文

このたび、富岡市では、令和2年度「富岡製糸場総合研究センター報告書」を刊行いたしました。

本市では、平成20年度に富岡製糸場総合研究センターを立ち上げ、富岡製糸場に関する調査研究を推し進めてまいりました。当センターは、令和元年度に係から課となり、「富岡市世界遺産観光部富岡製糸場総合研究センター」として、引き続き富岡製糸場に関する資料の調査や、場内に残された資料の管理をおこなっております。

「富岡製糸場総合研究センター報告書」は、平成21年度より現在までに11冊が刊行されており、これまで、フランスとの関わりや、経営状況、女性労働環境、繰糸機の変遷、発掘成果など、さまざまな視点から富岡製糸場を取り上げてまいりました。12冊目となる本報告書では、富岡製糸場名誉顧問今井幹夫氏による新発見資料の考察のほか、富岡市教育委員会による「旧富岡製糸場セミナー・ワークショップ」の活動、また、これまで一般には公開されていない原合名会社経営期の帳簿類の分析など、新たな資料や新たな視点による報告がされております。

さて、令和3年度の富岡製糸場は、国宝西置繭所の公開という大きな成果をあげた一方、コロナ禍による入場者数の減少という試練に直面しております。そうしたなかで、新たな資料の掘り起こしは、今後、富岡製糸場の価値や魅力の発信に大いに貢献するものと確信しております。

本報告書を多くの皆様にご覧いただき、忌憚のないご意見を賜ることができれば幸いです。

最後になりましたが、刊行にあたり貴重な資料の提供をご承諾いただきました片倉工業株式会社様をはじめ、関係各位に厚く御礼申し上げます。

令和3年3月

富岡市長 榎本 義法